

青年部から未来のために

For the future From 青年部 No.2

2007 日教組青年部総会 ②

青年部総会では、活発な討論が行われ、各号議案は満場一致で可決されました。

討論では、厳しい職場実態とともに、青年部の減少、職場の多忙化の中で、どう運動をすすめていくのか、各単組の葛藤とともにそのような状況に立ち向かう青年部のとりくみが報告されました。様々な実態や課題をどう共有していくのか、仲間が集い、学習し、どう運動をつくりあげていくのか討論における共通の柱だったように思えます。

青年に「気付きの場」をつくってほしい、職場の仲間や社会への「対話」をつくりだしてほしい。そして、そのことから民主的な学校・教育をつくっていくことを確認した総会となりました。



討 論 (続き)



(4) 平和・人権・青年共闘に関するとりくみ

(8本)

① 【北海道】

民主教育を現場で実現するために、私たちが今どうすべきか。人権や平和が他人事のようになってないだろうか。自分の問題となっているだろうか。

そのために①参加させて学ぶ②学習資料をコンパクトにまとめる③青年はやりたいことをやろう④日常的な情報交換を。若い声を大切にする組織でありたい。

② 【秋田】

「学んで、飲んで、語れ」と先輩に言われている。8月の東北ブロックの集いはたくさんの仲間が参加し、青年が集まればやれると感じた。秋田には「花岡事件(中国からの強制連行で脱走者を捕まえ拷問し多

くの人が亡くなった)」がある。6月29日の花岡慰霊祭では10名の青年が参加。戦争の被害の知識は色々と知ることができるが、加害の歴史ということをあまり目にすることがない。戦争は加害になるということも実感した。本当に伝えたいことを仲間に語っていききたい。

③ 【東京】

沖縄平和学習で教科書記述について学んだ。沖縄の人から「沖縄県ではこれがみんなの問題になっている。教科書は全国のことなのに、なぜ全国の問題にならないのか」と話してくれた。教科書の問題に全力でとりにくんでいきたい。

④ 【長野】

(修正案についての説明) 政党とのつながりで組合の活動が制限されるべきでない。

⑤ 【新潟】

先日の地震で11の方が亡くなった。すべて高齢者で家屋がすべて古かった。弱い者とお金のない者が被害に遭ったと言えるのではないかと。青年部として飲料

水などをもって被災地へ行った。新潟県教組として文科省にも支援加配を要請した。また、柏崎原発に議員と一緒にいった。被害を受けるのは地元の住民。エネルギー政策は大丈夫なのか、どうなっていくかを議論しなくてはならない。まずは身近なところを切り口に平和の輪を広げていこう。

⑥ 【大阪】

ユースラリーで平和について、93歳の方に兵隊としての体験を話してもらった。「お母さんと言って亡くなった仲間。戦争は大切なものをなくすもの。」という話を聞き、体験者の話は大切だと感じた。沖縄平和行進に大阪より一人500円のカンパをもらい、約80名の青年が参加した。「自分のまわりから平和を考えないといけない。」と言われたことが印象に残っている。

大阪は10年後半分の教職員が入れ替わる。若い人は教育技術を学びたがるが、子どもを育てるために大切な根本のことを学ぶ必要があるのでは。組合だからできる。今だからできる、今だからこそできることを、今しかできないことを、やりたいことをやっていこう。

⑦ 【兵庫】

他団体との共闘で7月にサマーセミナーをやった。体験学習を中心に、自衛隊は必要か、日本は平和なのかななどを分散会で討論。自分たちの価値観での「戦争＝平和教育」だけではなく、子どもたちの身近な生活からの平和の視点が必要ではないか。みんなの平和への祈りを折鶴として折り、広島にとどけている。他団体にも広げていきたい。

⑧ 【沖縄高】

教科書問題はなかなか変わらない。県下市町村全員が反対している。来月には全国集会、県民集会がある。このままでは自分たちの子どもがこの新しい教科書になってしまう。戦争しやすい国になろうとしている。高い意識をもってとりくんでいきたい。

総括討論

総括討論は、滋賀・馬場代議員、長野・三石代議

員、山形・阿部代議員、鳥取高・高田代議員が行いました。



① 【滋賀】

「組織拡大のために仲間と一緒にやっていくことを呼びかけながらすすめていくことの大切さ」

② 【長野】

「原点は憲法にあること、一人ひとりの悩みに寄り添って組織拡大をすすめていこう」

③ 【山形】

「支部活動を支えていくとりくみと仲間の声を聞くことにこだわって運動をつくっていこう」

④ 【鳥取高】

「教育実践と労働者性の必要性和支えあう職場での関係作りの必要性」

討論集約(賀来)

それぞれの討論を通じて、悩みながらも活動してきたからこそぶつかったものがあり、気付いたものがあつたと思う。仲間同士が、実態や思い、実践を持ち寄り語り合える「気付きの場」をつくるのが大切。そして、実態の交流からどう解決に向けて運動をつくっていくが議論していかなければならない。まずは、そんな場に「行くぞ」といえる職場の人間関係づくりが基盤となる。全国の仲間とともに1歩ずつ、対話を重ねながらすすんでいきましょう。





第1号議案「経過と総括」、第2号議案「運動方針」、第3号議案「青年部細則一部改正の件」、第4号議案「青年部定期総会スローガン」引き続き第5号議案「役員選挙に関する件」については、

谷口常任委員・兵庫と佐藤常任委員・千葉の退任にともなう補欠選挙では、定数内の立候補であったため、拍手による信任投票が行われ、満場一致で可決されました。

総会スローガン

語ろう！ 創造しよう！

動き出そう！ つくりだそう！

一人ひとりの豊かな学びを保障する教育を
いきいきと安心して

働きつづけることのできる職場を
憲法の理念にもとづいた、

平和・人権・共生の社会を

一人の子どもや仲間を守るために、

すべての職場に労働組合の確立を

希望ある学校・職場・社会の未来のために

一人の仲間から運動を拡大しよう

教え子を再び戦場に送るな

2007年8月25日

2007年日教組青年部総会

役員選挙

(退任) 常任委員	谷口 吉一 (兵庫)
	佐藤 喜保 (千葉)
(新任) 常任委員	小西 宏典 (兵庫)
	平柳 理紘 (千葉)

2007 青年部総会を終えて

結成 60 年の節目の総会を終えました。今回、議案書作成にあたっては、かなり時間を割いて作成し、常任委員会で議論しました。60 年経過しても変わらない視点、そして、時代に対応していく視点を現実の運動方針として表現することがこれほど難しいものかと感じてしまいました。大事なとりくみだからといっても職場でとりくめないのではないか、職場の状況が変わっていく中で青年が運動をつくることのできるのか、どんなことを切り口にできるのかと…。

今回は、運動を広げるという視点で、多くの関係労組や団体の青年組織を中心に来賓としての出席を案内文書と電話でもお願いをしました。結果とすればほとんどのところが出席できませんでしたが、多くのメッセージをいただきました。すべての運営にあたって、あらためて、「運動を広げていく」「つながっていく」ということ問いながら準備を行いました。

討論では、各単組のとりくみや青年部がとりまく状況の変化に伴っての葛藤やそれに対する工夫、さらには各都道府県の厳しい実態などなど、26本が出されました。「多忙で人が集らない」という声が多く聞かれる中で、その状況を乗り越えてとりくんでいる各単組の報告に、力強さと勇気をもらったというような意見が寄せられました。日教組青年部での議論をどう単組で議論し、思いを拡大していくのか、さらなる議論の輪を広げていくことが、この情勢を乗り越えていく大きな一歩になるのではないかと感じています。

全体を通じて、職場での「対話」をつくりだしていくことの必要性、そして、その「対話」の輪を保護者や地域、他の労組の仲間に



乗り越えていくことの第一歩は、話しかけていくことだと。



A group of students in a classroom setting, some sitting and some standing, engaged in a discussion or activity. The students are dressed in casual attire, and the room has wooden paneling and desks.

滋賀で開催した「Bブロック」では、地元滋賀県教組の高島支部の青年たちも参加してくれ、また各単組からの自主参加もあり、約30名という規模でじっくり、そしてアットホームな雰囲気での議論と



※詳細は、後日報告します。

Aブロック 北海道・東北・関東・日私教・日大教・EASU
11月24日(土)－25日(日)
仙台市「ハーネル仙台」

Bブロック 北陸・東海・近畿
11月17日(土)－18日(日)
滋賀県高島市「白浜荘」

Cブロック 中国・四国・九州
12月15日(土)－16日(日)
北九州市「西日本総合展示場」

[illegible]

Email kaku_hiroki@jtu-net.or.jp

[illegible]